

卑弥呼とはどんな人物かわかりやすく解説 (完全版)

卑弥呼とは

邪馬台国女王「卑弥呼」（教科書の説明）

誕生：不明

没：248年ごろ（説によって240年～248年の間と考えられている）

中国の「魏志倭人伝」に登場する邪馬台国の女王。

魏へ使いを送り、魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印、銅鏡などを授かる。



卑弥呼の年表

147～189年

「倭」ではたくさんの国々が争っていたが、卑弥呼を女王とすることで争いがおさまった

238～239年

卑弥呼が魏ぎへ使いを送り、「親魏倭王」の称号、金印、銅鏡を与えられる。

240年

魏の帯方郡から使者が来る。卑弥呼が魏の皇帝へお礼の書を送る。

243年

卑弥呼が魏に使者を送り、奴隸や錦などを献上する。魏の皇帝が、送られた使いに「印」と「ひも」を与える。

245年

魏の皇帝から軍旗が贈られる。

247年

邪馬台国・狗奴国との間で戦争が起こる。卑弥呼が魏の皇帝へ助けを求める。魏から軍旗と、狗奴国に対して「戦いをやめるように」という国書が送られる。

248年

卑弥呼が亡くなる。壹与が女王になる。壹与が魏へ奴隸や真珠を献上する。

266年

壹与が西晋へ使者を送る。

(歴史書で分かっている邪馬台国から中国への最後の使者)

※「壹与」や「壹與」という字を使うこともある





1700年以上も大昔の日本にはまだ文字もなかったのに、卑弥呼がいたなんてことがどうしてわかるのかというと、中国の歴史書「魏志倭人伝（ぎしわじんてん）」に書かれていたからなんだ。

ゆみねこの教科書

ゆみねこの教科書



魏志倭人伝とは

「魏志倭人伝」といっても、そういう本があるわけではないんだ。
 中国には歴史のことが書かれた24の歴史書があるんだけど、そのうちのひとつ「三国志」という歴史書の中の、「倭人（わじん・日本人のこと）」について書かれた部分のことを「魏志倭人伝」と呼んでいるんだよ。



その魏志倭人伝に、「卑弥呼」のことや「卑弥呼が邪馬台国という国の女王だった」ということが書かれているんだよ。



魏志倭人伝に書かれていた内容

「魏志倭人伝」の内容

倭人は帯方郡（たいほうぐん）の東南の大海の中にある。

倭に行くには、朝鮮を海岸沿いに航行すると…（一部略）…対馬国（つしまこく）に着く。

…（一部略）…船で10日、さらに陸路を1ヶ月行くと邪馬台国（やまたいこく）に着く。

倭の男は、大人も子供も顔や身体に刺青（いれずみ）をしている。女は髪を束ねてまげを作っている。稲や麻を栽培し、養蚕や織物をする。

以前は男王だったが、何年間も戦いが続いたので、共同で卑弥呼を女王にした。

卑弥呼は呪術が大変うまく、人々を信頼させた。千人の女奴隷を使い、1人の男子のみが飲食をささげ言葉を伝えた。宮殿・楼観（ろうかん）を厳重に作り、常に兵が守っている。

景初（けいしょ）3（239）年6月、卑弥呼は使者を帯方郡に派遣し、皇帝に謁見（えっけん）し朝貢（ちょうこう）することを求めた。

その年の12月、皇帝は卑弥呼に「今あなたを親魏倭王（しんぎわおう）に任じ、金印紫綬（きんいんしじゅ）を授け、銅鏡百枚などを与える」という手紙を送った。

卑弥呼が死ぬと、直径百歩ほどの大きな墓を作った。奴隷百人以上も一緒に埋められた。

その後、男王を立てたが戦いがおきたので、卑弥呼の一族の13歳の少女「壹与（いよ）※」を王とし、ようやく国は収まった。

※「壹与」や「壹與」という字を使うこともあるよ



邪馬台国とは

卑弥呼は、「邪馬台国」の女王だったと魏志倭人伝には書かれているね。邪馬台国がどこにあったのかの手がかりも書かれているよ。

邪馬台国はどこにあるの？

魏志倭人伝は中国の歴史書だから、中国の植民地だった「帯方郡」というところから邪馬台国への行き方が書かれているんだ。

その行き方を確認することが、邪馬台国がどこにあったのかのカギになっているよ。

帯方郡というのは、今の韓国のソウルよりちょっと北あたりのところ。このころは中国の「魏」という国の植民地だったんだ。



この帯方郡から韓国沿いに海を渡って、対馬国やいくつかの日本の島を超えて、さらに陸路を進んだり、船に乗ったり…とても詳しい行き方が書いてあるよ。最終的には、帯方郡から邪馬台国までは12000里ほどかかる、と書いてあるよ。



色々説はあるけど、これは大体840kmくらいと考えられているんだ。
途中に登場する島の名前などは実際どこのことかが大体わかっているんだけど…



だけど、ここから先の場所や道などは、どこの国の事を言っているのかとか、どちらの方向に進んだのかとか、どうやって行ったのかなどハッキリとわからないんだ。

なので、結局のところ「邪馬台国は日本のどこにあったのか」は分からないんだ。「邪馬台国が日本のどこにあったのか」については色々説があって、この「ハッキリしない」部分を「たぶんコレでしょ？」と当てはめていった結果、

1. 「九州にあった」という説、
2. 「大和地方やまとちほうにあった」という説、さらに
3. 「四国にあった」という説があるよ。



まとめ

魏志倭人伝に帯方郡から邪馬台国までの道順や距離がかかっているけど、そもそも登場する場所がどこか分からないものがあるから、邪馬台国の場所もナゾのまま！

卑弥呼とはどんな人物か？

魏志倭人伝には、卑弥呼がどんな人物なのか、どんなことをしたのかも詳しく書かれているよ。

書いてあること①

卑弥呼がどんな人か

倭の国（日本のこと）は、「くに」同士で争って大変だった。そこで、共同で一人の女性を女王にしたんだ。それが卑弥呼だね。

卑弥呼は、占いが上手で、それで人々を信頼させていたよ。

1000人の奴隷を使っていたとも書かれているね。とても偉かったんだね。1000人も奴隷がいたけれど、卑弥呼に近づくことができるのは1人の男の子だけだったと書かれているよ。

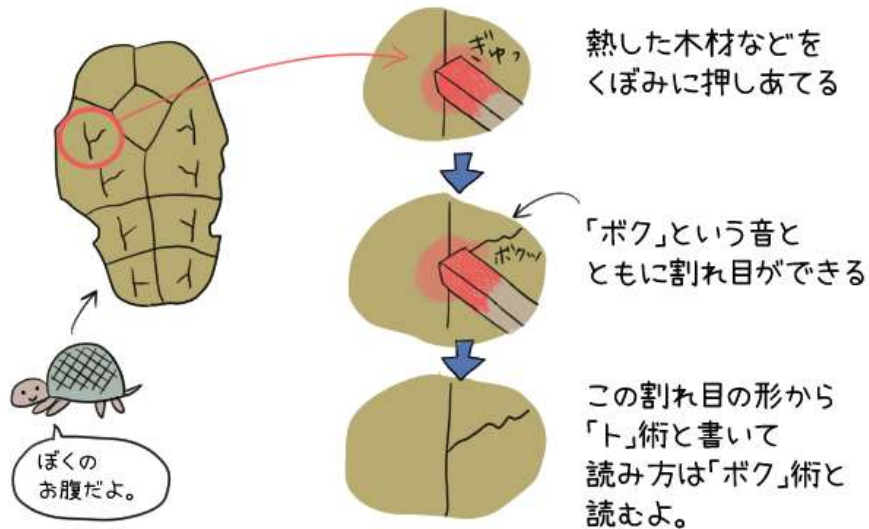
卑弥呼の食事のお世話をしたり、卑弥呼が占った結果などを伝える役割をしていたんだって。

卑弥呼の占いは、「卜術（ぼくじゅつ）」というものだったと書かれているよ。

卜術というのは、亀の甲羅や骨などを焼いて、その割れ目の入り方で占いをする方法の占いなんだ。



ぼく
ト術とはどんな占い?



まとめ

争いばかりだったので、占いの上手な卑弥呼を女王にしたら争いが治まった。
こうしてできた小国連合が「邪馬台国」

書いてあること②
卑弥呼は何をしたかのか

景初3年※（239年）の6月に、卑弥呼は帯方郡にお使いをやって、魏の皇帝にプレゼントを贈ったよ。

※「景初」というのは、中国の元号。魏志倭人伝に書かれているので、中国の元号が使われているよ。

このころの中国は大国（まわりの国に比べて、文化や力が優すぐれていること）で、周りの国は中国に「朝貢」をしていたんだ。

「朝貢」というのは、自分の国の特産物を持って皇帝こうていに挨拶に来ること。皇帝は、それに対してお返しの品をくれたり、「称号」をくれたり、金印をくれたりする。



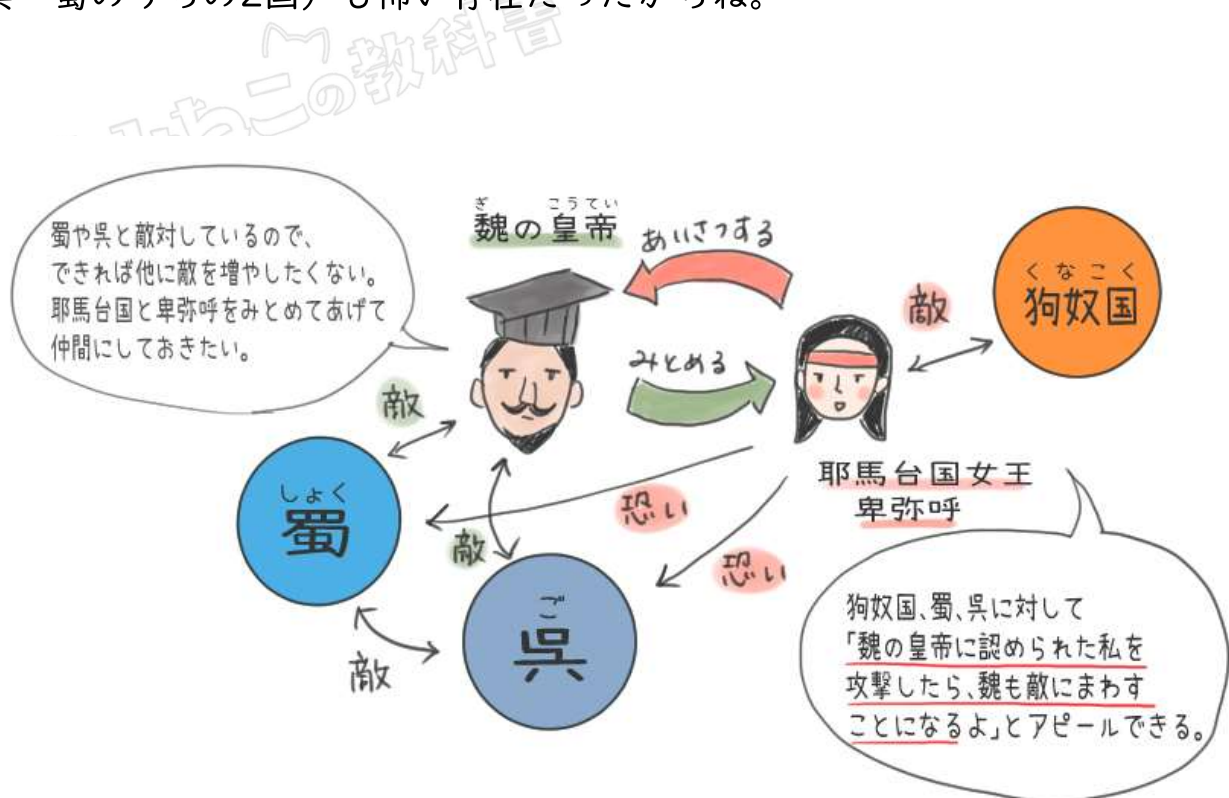
そうすると、

「〇〇国のリーダーとして皇帝にも認められた！」

ということになるから、リーダーとしての地位のアピールになるわけだね。

それに、「自分のバックには大国の中国がついているんだぞ！」と、他の国やライバルが攻めににくくする目的もあるよ。

実際、このころ邪馬台国のすぐ近くにあった「狗奴国」というクニは邪馬台国に反発していたし、中国の「呉」「蜀」（中国の三国時代にあった魏・呉・蜀のうちの2国）も怖い存在だったからね。



卑弥呼も、同じ年の12月に皇帝から「親魏倭王」という称号と、金印と組みひも、そして銅鏡を100枚受け取ったと魏志倭人伝に記録が残っているんだよ。

「親魏倭王」ということは、「倭の王」つまり、「日本のリーダー」として魏の皇帝から認めてもらえたということだね！

「親魏倭王」の「親魏」の部分は、「魏にしたがう」というイミだよ。つまり「魏にしたがう倭の国の女王」ということだね。



まとめ

魏の皇帝にプレゼントを贈って、「親魏倭王」の称号と金印、お返しのプレゼントをもらった！

書いてあること③

卑弥呼が亡くなったあとどうなったのか

卑弥呼率いる邪馬台国は、近くのクニ「狗奴国」と争っていたんだ。それを応援しようと、魏からは軍で使う旗などが送られてきたんだけど、それを持ってきたお使いの人々は卑弥呼が死んでしまったことを知るんだ。

(すでに死んでしまっていたのかどうか、死因などはナゾ)

卑弥呼が死んでしまった後、また男性が王になったりもしたんだけど、また邪馬台国の中で争いが起きるようになってしまった。

そこで、「やっぱり女王のほうが、みんながまとまるよね？」ということで卑弥呼の一族の壹与いよという13歳の女の子が女王になったよ。

それからは、また邪馬台国の争いはおさまったとのことなんだ。

まとめ

邪馬台国と狗奴国が争って、そのころ卑弥呼は死んでしまう。死んだ後に男性が王になるとまた争いが起きて、卑弥呼の一族の壹与が女王になると争いはおさまった

